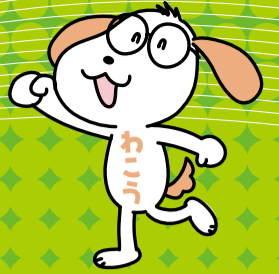


おるご〜る

No.20
2015
Spring



和光市男女共同参画推進係「わごうさん」

あなたの心のふたを開けて、思いを解き放ち、その思いを自分らしく奏でてほしい…。そんな願いから「おるご〜る」と名づけられました。



女性が働くとき、一番の足かせとなるものは家事ではないでしょうか。家事というと炊事や掃除、洗濯が浮かびますが、これは育児や介護にもついてまわるもので、家事と育児・介護を切り離して考えることはできません。

女性の家事時間が減ると、男性や子どもの生活にも影響が出ます。

就労意欲があっても、いまだ多くの女性が仕事か家庭かの二者択一を迫られてしまう今の社会を大きく変えていくために、家庭の小さな一歩、家事の見直しをしてみませんか。

家事はみんなです！

家事や育児・介護は「女性の仕事」と思っていないませんか？
男性も「手伝い」感覚ではありませんか？

家事関連活動を貨幣価値に換算(推計)
(単位:兆円)

区分	家事	買い物	育児	介護	社会活動	計
女性	77.5	17.1	11.7	2.4	2.0	110.7
男性	11.1	10.1	3.1	1.0	2.5	27.7
計	88.6	27.1	14.8	3.4	4.5	138.4

注)平成26年版男女共同参画白書より作成
(参考)調査時点の平成23年時点の名目GDP(国内総生産)470.6兆円

家事が社会経済にとってどのくらい貢献しているかを検証するために貨幣価値に換算する試みがあります。家事関連活動を市場価格で表すと、全体では約138兆円となり、そのうち女性が貢献している分は約111兆円、8割以上を占めています。

家事をお金に換算すると、
約138兆円！



家庭・家計
仕事 フルタイム
パートタイム
夫・子ども
父・母、舅・姑

労働

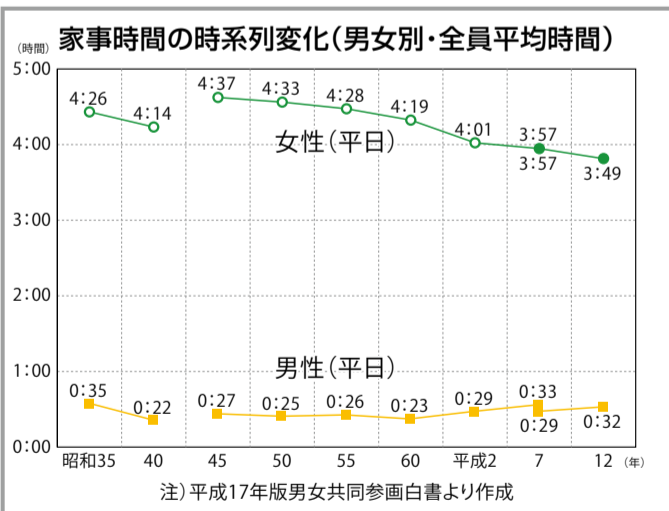
有償労働
●職業労働

無償労働

- 家事関連労働(家事、育児、介護、社会活動)
- ボランティア労働

労働には、賃金が支払われる有償労働と支払われない無償労働があります。無償労働の典型が家事です。家事は人々の生活ひいては社会経済を支える重要な仕事ですが、身近で無償であるために、軽く見られがちです。

家事も労働です。



わたし
作る人
ぼく
食べる人?

家電の進歩は、家事時間の短縮にあらず。家電の目覚ましい進歩、外食産業の発達やフリーニングの普及など、家事の省力化や外注化は、家事そのものの質を変え、人々の生活スタイルをも変えました。また、育児や介護の環境の整備も進んでいます。

経年的に見れば、妻の家事時間は昔よりは減ってきており、一方、夫の家事時間は少しずつ増えてきました。

では、女性は家事から解放されたのでしょうか？ 実は、家事に要求されるレベルは上がっており、まだまだ妻の家事関連活動に費やす時間は圧倒的に多く、家事労働は妻に任されていることがうかがえます。この傾向は、先進諸国に比しても顕著となっています。

家電の進歩は、
家事時間の短縮にあらず。

この騒動もあってか、「家事ハラ」という言葉は今回の流行語大賞にノミネートされるまでに至り、改めて家事というものを直視すべきところになりました。

某企業の広告がネット上で批判を呼びました。内容は、夫の家事協力に対する妻のダメだし行為を「家事ハラ」として取り上げたものでした。

そもそも「家事ハラ」とは、竹信三恵子氏(和光大学教授)が「家事労働ハラスメント」(岩波新書・2013年)の中で提起した造語です。竹信氏は、女性たちが担ってきた家事労働を無視、軽視、蔑視する嫌がらせを「家事ハラ」と名付けたのです。

しかし、この広告の中では「家事ハラ」が正反対の意味で使われてしまいました。また子育て中の共働き夫婦をテーマにした広告であるにもかかわらず、妻が家事を行い、夫は手伝い程度という前提であることに波紋が広がりました。

家事ハラ騒動



共働き
—妻の本音

男子の家事は 当たり前？

男子も家庭科

今から約20年前まで、義務教育では、男子は技術を、女子は家庭科を学んでいました。それは「男は仕事、女は家庭」の古い価値観からきていたものでした。

その後、家庭科は男女必修となり、調理や裁縫などの家事だけでなく、育児・介護なども体験するようになりました。

子どもも家事参加

現在、家事の分担について、子どもの性差は昔ほど感じられなくなっています。

しかし和光市が実施した小学生意識調査によると、男子が行う主な家事はごみ捨てとお風呂洗いでした。これは既婚男性が行う家事の調査結果と同じです。

父親の姿を真似ているのか、あるいは家事を促す親側に性別役割に基づいた家事分担の意識があるのでしょうか。

親の関わり方次第で、子どもたちの性別役割も変わっていくかもしれませんね。



やっています！ だけど……
夫の勘違い

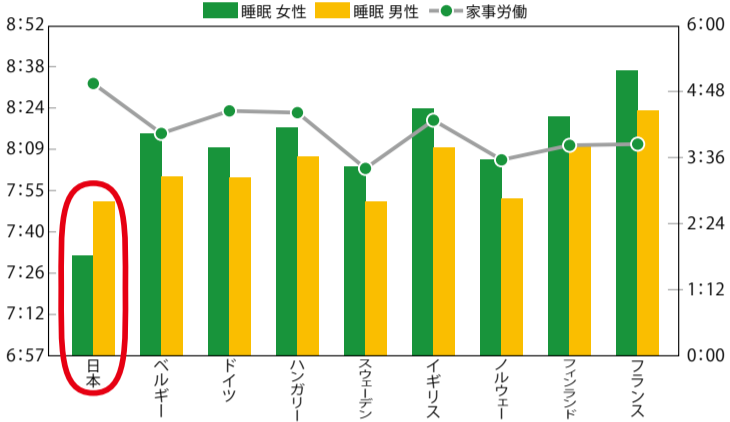
働く妻が夫を救う。

「夫は家族を扶養しなければいけない、それが男の甲斐性だ」という通念はいまだに存在しています。「家族のために」家庭を顧みず働き続けた結果、会話をする時間もなくなり家庭内別居、そして熟年離婚という話も今では珍しくありません。「父の背中を見せる」は今も昔も男性の子育てスタイルだという人もいますが、背中を見せている間に妻も子どももソッポを向いているかもしれません。

そんな中、家事も育児も夫婦で平等に分担し、妻が働きにでることで、性別役割から解放されたという男性たちの声も聞かれるようになりました。

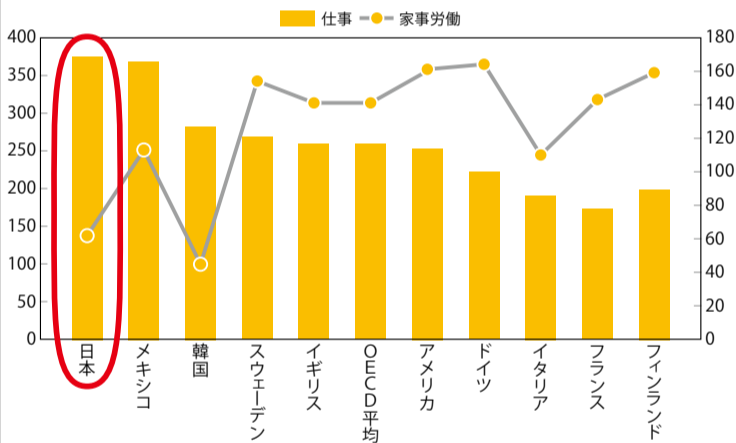
妻に収入があることで、夫は体を壊すほどの残業を続ける必要がなくなり、家族と過ごす時間が増えるというわけですね。また子どもも家事を分担することで得るものがたくさんあります。新しい形の家庭円満や充実した人生が拓けるのではないのでしょうか。

働く女性の睡眠時間と家事労働時間の関係



注) 睡眠時間: 総務省統計局労働局人口統計室「統計」2006データより作成
家事労働時間: OECD2009データより作成

男性の労働時間と家事労働時間の関係



注) OECDデータ2009より作成

男性の長時間労働が家事時間の短さに影響していそうだよ。

脱! 日本人の長時間労働



日本の女性は男性より睡眠時間が短いんだ。

男性の家事時間が短いランキング (単位:分)

順位	国	男性 (分)	女性 (分)	家事時間の男女差 (分)
1	韓国	45	227	-182
2	日本	62	299	-237
3	ポルトガル	96	328	-232
4	イタリア	104	315	-211
5	メキシコ	113	374	-261
23	スロベニア	166	286	-120
24	エストニア	169	288	-119
25	オーストラリア	172	311	-139
26	ノルウェー	184	215	-31
27	デンマーク	186	243	-57

注) 2014/3/17 OECD発表 'Balancing paid work, unpaid work and leisure' に使用されたデータ、Gender Data Portal 2014 Time use across the worldより ニッセイ基礎研究所 天野研究員作成

「家事」は 天下国家の問題です。

先進国の中で「男性の家事時間が最も長い国」とされているデンマークの取組みを取り上げてみましょう。

デンマークでもかつては「男は仕事、女は家庭を守る」との意識が強くありました。しかし、製造・貿易活動が盛んになっていった1960年代後半、急激な少子化現象が起こり、深刻な労働力不足に陥ったのです。その解消のために政府は女性の社会進出を促す政策を積極的に打ち出しました。

そして女性が社会に進出する中で、男女平等を求める女性運動が活発化し、それとともに男性の意識も変わってきたのです。

併せて、国による保育所や幼稚園などの子育て支援策、高齢者介護の支援策が進み、企業もワーク・ライフ・バランス、労働時間の短縮、ワークシェアリングやフレックスタイムの導入などに取組んでいきました。

こうして、国、企業、家庭の三者の連携の下に男女の働く環境の改善が図られた結果、家事の分担もそれぞれの家庭の事情に合わせて適切に行われるようになったとのことなのです。

家事の平等な分担を実現するためには、個人の努力だけでなく、国・地方や企業の取組を含む社会全体の変化が必要なのです。



編集後記

和光市男女共同参画アドバイザー

家事の「見える化」、進めたいですね。(西山 千恵子・東京国際大学、青山学院大学非常勤講師)

男女共同参画わこうプラン推進委員

- マタハラ・セクハラそして家事ハラと、ハラハラした1年でした。(大河内 茂美)
- そばに居るのが当たり前なほど、思いやりを持つことが

大事だと感じました。(三好 光秀)

- 育児しながらでは満足に働く事が難しいと実感しましたが、みんなで物を作り出す楽しさを味わう事ができました(村山 佳津子)

イラスト協力

- 表紙イラスト協力 難波 紫
- 本文イラスト協力 村山 佳津子



『おるご〜』へのご意見・ご感想等ありましたら、人権文化課までお寄せください。
電話:048-424-9088 FAX:048-464-1234 Mail:a0400@city.wako.lg.jp

平成27年度男女共同参画

わこうプラン推進委員を募集します!
募集期間:平成27年4月10日(金)まで

毎月1回程度、会議を開催して、和光市男女共同参画情報誌『おるご〜』の作成に向けて話し合いをし、情報紙を作成していきます。男女共同参画について、一緒に考えてみませんか。アットホームな雰囲気で行われています。ご興味のある方、ぜひ、ご連絡ください!